

# 事後評価結果（平成24年度）

担当課：近畿地方整備局 道路部 道路計画第一課  
 担当課長名：安谷 覚

事業名	一般国道24号 <small>わかやま</small> 和歌山バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 近畿地方整備局
起終点	自：和歌山県岩出市備前 至：和歌山県和歌山市出島	延長	10.3km		

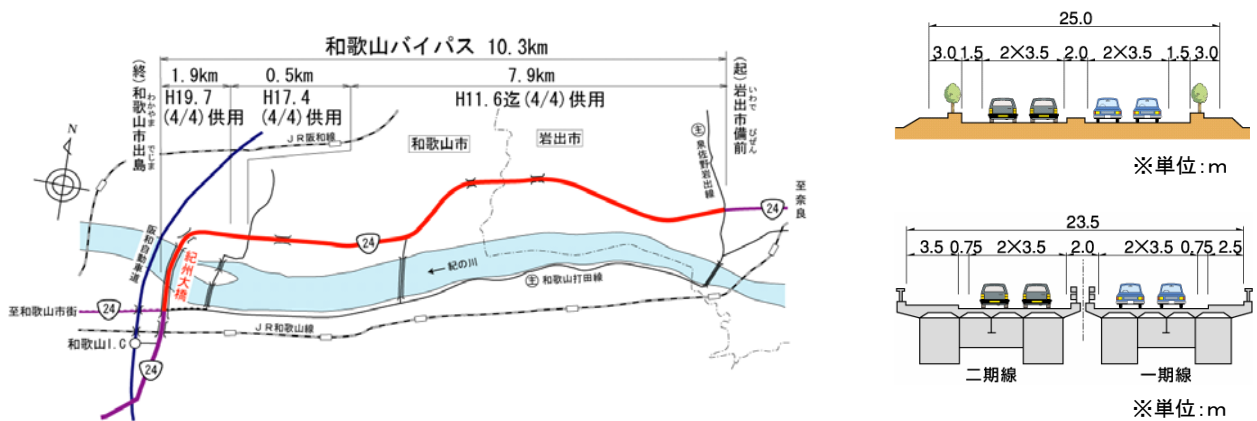
## 事業概要

一般国道24号は、京都府京都市を起点とし、奈良県奈良市を經由して和歌山県和歌山市に至る延長約190kmの主要幹線道路である。（京奈和自動車道を含む）

## 事業の目的・必要性

一般国道24号は、和歌山県紀北地域唯一の幹線道路として沿道地域の生活や地域開発、産業活動などに大きな役割を担ってきたが、交通量の増加や地域開発の進展などから交通混雑が発生し、地域の人々の生活に影響を及ぼしていた。和歌山バイパスは、交通需要の増大に対応し、一般国道24号の和歌山市流入部の交通混雑の緩和、沿道地域の交通安全の確保等を図るために計画された延長10.3kmの道路である。

## 事業概要図



事業の 効果 等	事業期間	事業化年度	昭和50年度 都市計画決定	昭和58年度	用地着手	昭和54年度	昭和55年度	供用年	(前回) / H19 (実績) / H19	変動	1.00倍	
	事業費	計画時 (暫定/完成)	(名目値) 一億円 / 480億円 (実質値) 一億円 / 469億円		実績 (暫定/完成)	(名目値) 一億円 / 508億円 (実質値) 一億円 / 461億円				変動	一倍	
	交通量 (当該路線)	計画時 (暫定/完成)		17,300~ 台/日 / 37,600台/日	実績 (暫定/完成)		(H22年度) 一台/日 / 34,560台/日			変動	92%	
	旅行速度向上 (供用前現道→当該路線)		36.8 km/h → 43.2 km/h (供用前年次) H9年度 (供用後年次) H24年度		交通事故減少 (供用前現道→供用後現道)		130 件/億台キロ → 109 件/億台キロ (供用前年次) H9年度 (供用後年次) H21年度					
	費用対効果 分析結果 (当初)	B/C	1.6	総費用	880億円 (事業費: 831億円 維持管理費: 49億円)	総便益	1,371億円 (走行時間短縮便益: 1,335億円 走行経費減少便益: 31億円 交通事故減少便益: 4.8億円)	基準年	平成16年			
費用対効果 分析結果 (事後)	B/C	1.1	総費用	1,138億円 (事業費: 1,069億円 維持管理費: 69億円)	総便益	1,281億円 (走行時間短縮便益: 1,199億円 走行経費減少便益: 60億円 交通事故減少便益: 21億円)	基準年	平成24年				
事業遅延によるコスト増			費用増加額	— 億円	便益減少額	— 億円						
事業遅延の理由	—											
客観的評価指標に対応する事後評価項目	—											

	<p>①特定重要港湾へのアクセス向上 ・岩出市役所～和歌山下津港への所要時間が短縮（62分→45分：17分短縮）</p> <p>②農産品の流通の利便性向上 ・JA紀の里（岩出支店）～大阪中央卸売市場への所要時間が短縮（111分→94分：17分短縮）</p> <p>③日常活動圏中心都市へのアクセス向上 ・岩出市役所～和歌山市役所への所要時間が短縮（61分→44分：17分短縮）</p> <p>④交通量の減少による並行区間等における安全性向上 ・（主）和歌山打田線（旧一般国道24号）：交通量212百台/日→172百台/日 死傷事故率：75件/億台和→57件/億台和</p> <p>⑤第3次医療施設へのアクセス向上 ・岩出市役所～和歌山日赤医療センター（60分→43分：17分短縮）</p> <p>その他評価すべきと判断した項目 特になし</p>
事業による環境変化	<p>環境影響評価に対応する項目 ・環境影響評価は実施していない。</p> <p>その他評価すべきと判断した項目 特になし</p>
事業評価監視委員会の意見	<p>審議の結果、「一般国道24号和歌山バイパス」の完了後の事後評価は、事業評価監視委員会に提出された資料、説明の範囲において、おおむね適切に進められていると判断される。</p>
事業を巡る社会経済情勢等の変化	<p>和歌山バイパス沿道地域の岩出市では、人口が増加。自動車保有台数は増加し、近年横ばい。また、岩出市では全産業の従業者数及び事業所数が年々増加傾向にある。</p>
今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性	<p>和歌山バイパスの供用により、一般国道24号における交通混雑の緩和、交通安全の確保などの効果が確認されるなど、効果の発現状況に特に問題はなく、今後の事後評価の必要性は生じていない。また、想定された効果についても発揮されており、当面、改善措置の必要性はない。</p>
計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性	<p>和歌山バイパスに関して、同種事業の計画・調査のあり方について、今後の参考となる事項はみられない。また、事業評価の手法について、見直しの必要性はない。</p>
特記事項	<p>特になし</p>

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。